

<b>■After</b> <b>建築名称</b> 下段: 英語名	<b>サン・シーロ・スタジアム</b> San Siro Stadium		
<b>建築用途</b>	<b>大分類</b> スポーツ施設	<b>小分類</b> サッカー競技場	
<b>改修設計者</b>	Giancarlo Ragazzi	URL	<b>After</b> 3回の増築を経た現在の外観
<b>所在地</b>	イタリア、ミラノ	Google Map	
<b>改修年</b>	1935 1956 1990		<b>撮影者提供者</b> 柳沢伸也
<b>建築規模</b>	75,817席、3層、高さ68m、長さ205mスパンのトラスで屋根を支持。		<b>概要 after</b> 1926年建設の35000人規模のスポーツ施設が、3回の増築を経て約80000人規模の屋根付き競技場に拡張。各時代の構造が壊されることなく積層。
<b>掲載書誌</b>	SD433号(2000年10月)		
<b>賞・選定</b>			
<b>■Before</b> <b>建築名称</b>	<b>San Siro Stadium</b>		<b>概要 before</b> 1926年にAlberto Cuginiの設計で建設。1955年にアクセス用の19本の斜路と2階席が建設され、印象的な斜路デザインが完成した。
<b>建築用途</b>	<b>大分類</b> スポーツ施設	<b>小分類</b> サッカー競技場	
<b>■写真</b> Before	<b>After</b> 1956年に増築された斜路(左)と1990年の構造部分(右)		<b>After</b> サッカー観戦風景
写真2 Before写真			
<b>撮影者提供者</b>	<b>撮影者提供者</b> 柳沢伸也		<b>撮影者提供者</b> 柳沢伸也
<b>■リノベーション内容</b>	<b>キーワード</b> 増築、大規模改修、引用、重ね合わせ、スーパーストラクチャー	<b>内容</b> 世界で最も有名なサッカー競技場であるミラノのサン・シーロ・スタジアムは、3回の増築を経て現在の姿になった。もとは、Alberto Cuginiの設計で1926年に35000人収容のスポーツ競技施設として建設され、1935年に周囲を取り囲む観客席が建設されて最大55000席まで拡張された。1955年には、2階席と安全に避難が可能な斜路が周囲に建設されて、特徴的ならせん状のデザインが完成。1990年のイタリア開催のワールドカップのために屋根の設置が必要になり、再建か増築すべきかの議論の末、既存を生かしたままの拡張工事を行うこととなる。Giancarlo Ragazziによる設計で、コーナーに巨大な4本柱を立てて、3層目の観客席とスパン205mに及ぶ巨大な鉄骨トラス梁による屋根が設置された。3回目の増築では2回目に設置されたらせん状のデザインが踏襲され、高さ68mの巨大な柱にも斜路が巻かれた。この斜路は観客は安全に早く会場から出られるための避難路としての役割も持つ。各時代の建物が壊されることなく、合体ロボのように重なり合ったその姿からは、時代を経て成長していくテクノロジーが見てとれる。	
<b>■備考</b>	1926年に、ACミランの本拠地として建設されたサン・シーロ・スタジアムは、1947-1948シーズンからインテルの本拠地にもなり親善試合が始まる。75,817席のサン・シーロ・スタジアムは現在イタリアで最大。高い基準の快適性と安全性を特徴とする構造は、UEFA カテゴリー 4 (最高位)に分類される。		
<b>■作成者</b> 氏名/所属	柳沢伸也/JIA再生部会		<b>管理者</b> 記載